

みのおキューズモール

心ときめく出会いをもっとずっと、そばに。

いよいよ、リニューアルオープンの日を待つのみとなった『みのおキューズモール』。これまでの歩みを読者の声と共に辿りつつ、施設に携わるスタッフに話を聞いた。



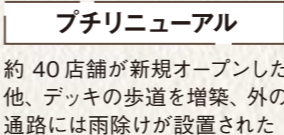
真紅のパニガーレさん(46歳・男性)
「カルフル」だった頃に行って、箕面にもおしゃれなところが出来たとびっくりした。

フランスに本社を置く小売業者「カルフル」を中心に、ジムや映画館のある WEST エリア、さまざまな専門店が並ぶ EAST エリアがあり、約140店舗で構成。EAST エリアは、南欧の郊外に建つ「ヴィラ(別荘)」を彷彿とさせる造りに

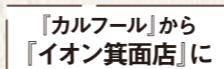


ピーチさん(51歳・女性)
子どもと両親と見に行きました。「イオン」でお弁当やお惣菜やビールを買って敷物を敷いて、夜風にあたりながら見物したのは楽しい夏の思い出です。

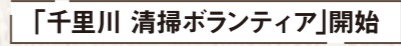
菅野地区に300年ほど前から伝わる祭り。「かやの中央」のまちづくりをきっかけに、地域住民の協力のもと復活し、毎年8月、お盆の時期に開催



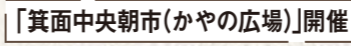
約40店舗が新規オープンした他、デッキの歩道を増築、外の通路には雨除けが設置された



「かやの中央」のまちづくりのために発足した団体「かやの中央まち育て交流会」が主体となり、春～秋の月に1回、川の美化活動を行っている



よちみさん(40歳・女性)
夏のザリガニ釣りには大人も子どもと夢中になって楽しんでいました！今年も楽しみ！！



まーくんさん(35歳・男性)
夏の暑い日も冬の寒い日も、一生懸命野菜、果物、お米を売っていたスタッフの方の姿、忘れません。幼い我が子の相手もよくしてくださり、娘も働く人の姿を自然と感じられたと思います。店舗となった今でも、利用しています。

「ある日の朝、よく散歩に来られるご夫婦がテラス席で仲良く朝食を召し上がったのですが、その光景がすごく印象的で」と話すのは、2003年10月10日の開業時から施設の様相を見てきた設備スタッフ・藤本清悦さん。同じく、オープン初日から在籍する清掃スタッフ・矢野初さんは「ペット同伴OKなので散歩コースになっていたり、春と夏は千里川で遊ぶご家族も多くなり、しゃやいますね」と、日々「みのおキューズモール」で見かける光景を、微笑ましそうに振り返った。

まちに溶け込み、人に寄り添う。思い思いに過ごせる憩いの場



設備スタッフ 藤本清悦さん
清掃スタッフ 矢野初さん
常時、施設内を巡回しているお2人。お客さんやスタッフと気さくに話し、施設の活気を作っている。「ここで働くことが若さと健康の秘訣です」と、快活な笑顔を見せてくれた

散歩がてらふらつと立ち寄ることもできる、オープンな造りが特徴的な同施設は、市が進めていた「かやの中央」のまちづくり事業の核として誕生。建設エリアの豊かな自然環境を活かすべく、敷地内を流れる千里川に則して、開放感のある「オープンモール型複合ショッピングセンター」となった。さらに、千里川に親しんでもらうことを目的とした「せせらぎ公園」やイベントの会場となる「市民広場」の整備によって、買い物をするだけでなく、思い思いの時間が過ごせる憩いの空間に。「まんどろ火祭り」復活のサポートや「みのおマママルシェ」の開催といった、地域に根差した活動も積極的にを行い、このまちに、人に寄り添ってきた。その一つひとつは、同施設を訪れる人たちの思いとなり、再び訪れるきっかけにもなり、今日まで親しまれ続けてきたのだ。

新しい施設で出えるのは、未来へ続く発見やワクワク

17年間の歩みの中で、定期的な新規店舗のオープンや施設名の変更などを経てきたが、今回は建物の修繕も含めた、開業以来最大規模のリニューアルとなる。「エンパワ」は「To-gather」。「みのおキューズモール」の総支配人・志村敦史さんは、「物を作るだけの施設ではなく、特徴であるオープンな造りを活かして、地域の人たちが足を運びたくなる仕掛け」をたくさん作っていかうという方針に決まりました」と話す。そこで、新たな設備として、ドッグランや屋根・音響を備えた屋外ステージ、雨でも利用できる子どもの遊び場に、ボックス席



総支配人 志村敦史さん
「つどいを育むことで、地域の人と人の繋がりが生まれる場所にもなっていきたいと考えています」

▲小型犬用ドッグランはEAST1階に



▲4つの空間から成るフードコート

や小上がり席など、多様な席で構成される大型フードコートを整えた。その上で、さまざまな年代、趣味趣向の人が楽しめるように、「食」「ペット」「アウトドア」「スポーツ」「自然」「音楽・芸術」「子育て」と7つのテーマを掲げ、それらに則った企画・体験イベントを多数計画。人々の「つどい」と「交流」を育む、ライフスタイルセンターをめざすという。「今まで行ってきた取り組みも大切にしながら、多種多様な企画・体験イベントをどんどんやっていきたいなど。その中で何か一つでも心に刺されれば、体験したことで一緒に記憶に残っていくと思うので。20年、30年、その先も地域と共にある場所にしていきたいですね」と志村さん。

思い思いに過ごせる日常的な居心地の良さはそのままだに、新しい発見やにぎわいを生み出す仕掛けを整えた同施設。その根底には、この先も地域と深く繋がりを、共に歩んでいきたいという思いがある。志村さんの話を聞く中で頭に浮かんできたのは、生まれ変わった施設でさまざまな企画・体験を楽しむ人々の姿。変わらざるうちに、人に寄り添ってくれる「みのおキューズモール」においてこそ育まれる、新たな出会いへの期待を胸に、その日を心待ちにしたい。



「稼いで使う」体験は、人との繋がりを育む

2011年に「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」が流通を開始した地域通貨「まーぶ」。子どもたちにとってさまざまな学びに繋がる、「自ら稼いで使う」機会をサポート



「子育てママが笑顔になれるまちづくり」をコンセプトに、助産師が中心となって活動している団体「みのおママの学校」とコラボレーションし、不定期で開催

よなさん(34歳・女性)
毎回行っは、可愛い子ども向けアイテムや美味しい食べ物に出会えるのが楽しみ。冬はお休みなのが残念。また暖かくなる頃開催されるのが楽しみです。

リニューアルの詳細は次のページへ

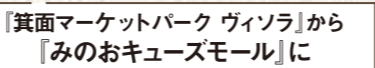
【取材協力】
みのおキューズモール
TEL / 072-729-1090
住 / 箕面市西宿 1-15-30
※4月8日～当面の間休館(一部店舗を除く)
※営業再開日などについてはHPにて確認を



新しい「みのおキューズモール」へ

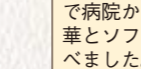


「キューズモール」各施設で取り組んでいる社会貢献活動。会員からポイントの寄付を募り、地域に還元している。直近では、地元の新小学1年生に「オリジナル防犯バザー」を寄贈した



建物はそのままに、施設名を変更

チャーちゃんさん(66歳・女性)
父が亡くなる前の年、「みのおキューズモール」まで病院から外出して、中華とソフトクリームを食べました。「美味しい美味しい」と言っていた姿が、今もその場所に行くと思いがされます。



シルバーファーンさん(53歳・男性)

「キューズモール」施設を初めて訪問したのが「みのおキューズモール」でした。娘に色々なお店を教えてくださいながらワクワクしていたのを思い出しました。

うめやんさん(30歳・女性)

娘が産まれる前、ウォーキングを兼ねて「みのおキューズモール」をお散歩していました。小さい子とすれ違う度にお腹を撫でて、あなたも元気に出てきてね、とお願していました。今もお休みの日は家族3人で手を繋ぎながら、思い出いっぱいの「みのおキューズモール」をお散歩しています。